



南高

律・啓・創

7・8月号

進路だより

HOP! STEP! JUMP!

平成30年7月5日
福島南高・進路指導部

7月8月の行事予定

- 1日(日) 全商ビジネス文書実務検定
第1回実用英語技能検定2次
- 2日(月) 求人票受付開始
第1回朝食について見直そう週間
(6/29~7/5)
- 3日(火) 学校訪問(②③④⑤⑥①、⑦カット)
第3回交通安全指導・第2回挨拶指導
- 5日(木) 薬物乱用防止教室(2年)
- 6日(金) K G G S 姉妹校交流(~7/19)
- 8日(日) 全商ビジネスコミュニケーション検定
- 10日(火) 小論文分野別ガイダンス(3年)
- 12日(木) 学類再編の福島大学説明会(2・3年)
- 16日(月) 海の日
宇都宮大オープンキャンパス
- 19日(木) K G G S 姉妹校交流帰校日
- 18日(火) 全校集会・壮行会・
街頭補導

- 21日(土)~8/26日(日) 夏季休業
- 23日(月)~27日(金) 夏期課外(1年)
~27日(金) 夏期課外(2年)
~8/9日(木) 夏期課外(3年)
- 31日(水) 東北大学オープンキャンパス
- 8/1日(月) 中学生体験入学(オープンスクール)
- 8/4日(土) 山形大学オープンキャンパス
- 8/5日(日) 福島大学オープンキャンパス
- 8/10日(金)~11日(土) 第2回全統マーク模試
- 8/23日(木) 就職推薦会議①
- 8/27日(月) 全校集会 課題テスト
- 8/30日(木) 進路希望調査②
- 8/31日(金) 進学推薦会議①

センター試験 1月19日まで
・・・あと198日

就職試験開始9月16日まで
・・・あと73日

「夏を制する者は、受験を制す！」

「夏を制する者は・・・」とは、よく聞く受験の「慣用句」みたいなものである。しかし、これは普段の積み重ねの上に・・・であって、夏期休業だけ頑張ろうとしても、途中で挫折するのが目に見えている。中間考査終了が6月14日(木)。夏期休業前の全校集会が7月20日(金)。この一ヶ月をどう過ごしているか？ 3年生は自分のベースとなる学習に取り組んでいるだろうか。英語・数学・国語の基礎固めはどこまでできているか？ 1・2年生は定期考査が終了し、一段落して学習意欲が減退、家庭学習時間もゼロが当たり前になっていないだろうか。それでは何も学んでいないことになるのだ。定期考査の内容も復習をしないと記憶から消えていくことになるのだ。この期間を大事に、計画的に自宅学習して、「継続」して、主体的に学び続けるから、「継続は力なり」といわれる。

1年生へ

高校で初めての定期考査が終わった。思っていたより点数が取れた、取れなかった？ 自分が思い込んでいたほど、点数が取れない自分があることに気がついたはずだ。問題は、次に向かってどう進むかだ。今しっかりと自分に向き合い、「失敗」や「苦悩」あるいは「諦め」から学び、自分自身を変えていってもらいたい。

先日、福島大学の中村先生から「進学とキャリアデザイン」と題して、幸せに生きるためにどうするか、そしてキャリアデザインの重要性について、お話をお聞きした。その中でポイントのは、人生の節目ごとに目標を立てる生き方を送ることではなかったか。だとすれば、高校1年生の今、しっかりと目標を前向きに考

える人間になってもらいたい。新しい大学入試の話まで至らなかったが、その部分を補足したいと思う。これまでの大学入試と大きく違うところをまとめると、

- ① 大学入試はペーパーテストの一発勝負の要素が多かったが、新テストでは高校時代の活動歴なども評価の対象となった。主体的に他者と協働して学んできたことが問われるのである。国立大学だけに限れば、定員の30パーセントはAOや推薦入試で確保することになる。
- ② 大学入学共通テストでは、記述式の問題も導入される。(思考力・判断力・表現力を評価)
- ③ 英語については、外部検定試験を活用して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能が評価・活用される。今のところ各大学の判断で活用されるようである。

もうすぐ夏休みである。学校には大学や様々な団体から高校生を対象とした講座の案内が届いている。自分の興味関心に合致すれば、積極的にトライして、様々な経験を積み重ね、経験の幅を広げていって欲しい。そこには、偶然だけれども幸運な出会いもきっとあるに違いない。その経験を記録にとどめておくことが大切である。長い休みを利用して読書をすることも重要な要素である。現代社会を解き明かすキーワードとして、例えば、「人口減少社会」「AI」「グローバリズムと格差社会」「ポピュリズム」「働き方改革」などをあげることができる。これらについて書かれた文章が多くの大学で小論文の課題文として取り上げられている。新書版を何冊か読んで、じっくり考えてみるのはどうだろうか。とにかく、夏休みにしかできない経験を主体的に取り組んでももらいたい。

2年生へ

君たちは、高校生活の折り返し点にいるという自覚はあるか？1年半後には、最後の「センター試験」を受験する。1年次に自覚した反省を生かしているか？目標が定まらない人は、この夏季休業を生かして、自分の将来をじっくり考えなさい。生きるということは、「試行錯誤」の連続である。失敗したり・うまくいかなかったりの方が、成功したり・うまくいくことよりも圧倒的に多い。その時は、もう一度軌道修正して新たな目標を設定するのである。オープンキャンパスもこの夏休み期間開催する大学が多く、積極的に参加してもらいたい。そこで、自分の力で「見て」「聞いて」「歩いて」大学の学びを研究しよう。自分はいったい何を学べば良いのかをじっくり研究し、志望大学学部学科を早期に決定しよう。目標を設定すれば、勉強に本腰を入れなければならないと自覚する筈である。長い夏季休業も、過ぎてしまえば、後悔だけ、という思いは、もう繰り返さないように、有意義な時間にして下さい。

1年生に新しい入試制度を紹介したが、部分的には先取りしている大学も出てきている。実は君たち2年生にもそっくり当てはまることなのだ。しかも、センター試験最後の学年ということは、もしも浪人でもすれば、翌年、不利な条件下で再チャレンジしなければならない。受験勉強に取り掛かる時期は早ければ早い方がよい。

「2018年度入試結果研究会」(ベネッセより)

【2018年度入試結果の全体概況】

①近年の入試を取り巻く環境

大学の総志願者数はここ数年67～69万人程度で概ね横ばいの状態が続いている。1992年度のピーク時に比較して約7割に減少した。一方、入学者数は緩やかに上昇を続けている。総志願者数から入学者数を減じた推定不合格者数は1992年度入試の約38万人から、ここ数年は約6万人にまで減少しており、長期的に見れば、受験競争の緩和が進んでいる。しかし、最近の2、3年では、私立大学の入学定員厳格化によって合格者の絞り込みが起こっている大学もみられる。特に人気の高い都市部の私立大学ではその影響が顕著であり、受験競争が厳しくなっている。

②「地元志向」の傾向が続く

近年の入試の特徴として、「地元志向」が挙げられる。「大学入学者に占める地元高校出身の割合」をみると、2005年度から年度によって上下しつつも、徐々に地元高校出身者の割合が上昇してきている。本校でも、

今春は16名が福島大学に合格、近隣だが東北学院大学の合格数が30名とかつてないほどの数字を残した。

③大学入試センター試験の概況

大学入試センター試験の志願者数は582,671人となり、前年と比べて、6,704人増加した。受験率は95.1%、受験者数は554,212人となり、前年度より増加した。18歳人口は減少しているものの、現役志願率が増加したことや既卒者の志願者数が増加したことを背景に、増加したものと思われる。

データネットによる5教科900点集計の予想平均点は、文系が555点（得点率62%）理系が564点（得点率63%）となり、前年と比較して、文系は-2点、理系は+2点となった。科目間の平均点も大きな変化はなく、理想的な平均点に収まる形になった。

④文系人気の傾向が続く

文部科学省によると、大学卒業者の就職率は近年好調であり、今春は98.0となり過去最高水準に達している。（3月末時点、1996年3月卒業以降の統計）。このように就職状況が好調であると、国公立大・私立大ともに経済・経営・商学・社会学などを中心に社会科学が人気である。加えて私立大では、人文科学、語学系統も人気である。

理系ではAI、IoT、ビッグデータというキーワードに代表される、社会的要請の高い情報系に志願者が集まっている傾向がある。また、近年の特徴として、文系・理系の区分にとられない文理融合型や複数の分野にまたがるような学際的な学びができる系統にも人気が集まっている。

⑤国公立入試概況

国立大学の一般入試の志願者数は465,708人（前年指数99）と前年並み。国立大学の志願者数は対前年指数98とわずかに減少しており、近年の国立大学志願者数の緩やかな減少傾向が継続した。公立大学は志願者数は対前年指数101と前年並み。**後期日程の欠席率は56.9%**と、6年続けて前年を上回った。前期日程で合格したり、私立大学への進学を決めて後期日程を受験しない場合がある。後期日程の廃止・縮小が続く中、前期で決めてしまいたいという慎重な出願や、私大への進学を決める動きが強まっている。逆に言えば、**後期まで粘ってあきらめなかった人にはチャンスが訪れる**といえそうだ。

⑥私立大入試概況

文科省の指導による入学定員厳正化の影響で、一般入試の総志願者が約359万人（対前年指数107）と増加している一方で、合格者数は約87万人（対前年指数96）と減少した。早慶MARCHでも志願者が増加したが、合格者数は減少した。2019年度入試においてもこの傾向は強まり、早慶・MARCH・関関同立レベルの大学の難化、それに続く中堅私立大学の難化が続きそうだ。

⑦2019年度以降も広がる推薦・AO入試

2018年度入試における国立大学の全募集人員に占める推薦・AO入試の割合は約17%であり、30%にはいまだ乖離がある。その中で拡大が続くのが東北大である。2018年度には21.4%であり、2019年度には24.5%となる予定である。東北大ではAO入試を導入した当初から学力を重視してきた。このように、学力を重視する一方で、学力の3要素を問う入試形態もますます増えることが予想される。それぞれのアドミッションポリシーに沿った面接・口頭試問・プレゼンテーション・小論文・模擬講義・レポート・集団討論・総合問題等、その中身は多岐にわたることになる。

【地元福島大学は？】

学類名	最高点	平均点	最低点
人間発達一言語文化（英）	657	603	576
人間発達一言語文化（国）	626	590	567
行政政策	710	578	533
経済経営	704	587	550
人間発達一人間発達	651	573	532
共生システム理工	756	552	490
人間発達一地域生活（小社）	620	578	540
人間発達一数理科学	653	523	456

左の表は2018年度入試（前期日程）における合格者のセンター試験（900点換算）最高点、最低点、平均点を表したものである。（ベネッセの合否追跡調査）合格者の平均点は570～580点に合致している。共生システム理工は550点台である。経済経営学類を例に詳細を見てみると、580点台では、合格29名、不合格5名（合格率85.3%）。570点台では、合格19名、不合格16名（同54.3%）だった

ものが、550点台になると、合格8名、不合格21名(同26.7%)と一気に落ちてしまう。確実に合格するためには、**センター試験で570点～580点位は最低でも必要な数字なのだ**。もちろん、580点を持っていても2次試験の実力がなければ不合格者の方に入ることになる。共生システム理工学類はこの数字が約20点低く、550点～560点は必要である。人間発達の数理科学は募集枠が狭いうえに、思った程集まらなかったのが、今年度入試は低い数字となった。しかし、入試には隔年現象という言葉があり、翌年は集まる傾向があるので、2019年度入試は要注意といった所である。

3年生へ

中間考査直後、進研マーク模試を実施した。自己採点した結果はどうだったか？結果に一喜一憂せず、ここで冷静に考えてもらいたい。上記表で見たように、入試本番で福島大学に合格するにはセンター試験本番で、570～580点位は必要である。結果が返ってきたと思うが、何点足りないのかの自己分析はできているだろうか？次の模試までにどの科目を何点UPさせるかを計算しているだろうか。例えば、世界史だと、イスラーム世界の分野が不得意なので、しっかりやればあと10点位はUPできるだろう、中国の宋元時代もまだ理解できていないので、もう一度復習して5点位は稼ぐことができるだろうと、ターゲットを絞って学習計画に活かすようにしよう。9月のマーク模試では、**510点取れていれば、本番のセンター試験では580点を取ることが濃厚**となるのである。まずは**510点**を目標に科目ごとに目標点数を算出してください。そして計画的に学習をすすめていこう。

夏季課外は7月23日～8月9日までの長丁場となる。課外に出席していることが受験勉強なのではない。継続して家庭学習に取り組んで初めて、課外の学習内容を把握し、自分の身に付いていないところを自覚することになるのだ。1日、**10時間以上**は勉強するつもりで頑張り、暑い夏を乗り切ってもらいたい。それから、この時期、入学する学校の目標を下げて、勉強することを放棄することを絶対するな。その時点で学力はどんどん低下していくことになる。「入れる大学」ではなく、「入りたい大学」に最後までこだわって欲しい。最後まで粘れる南高生であってほしい。この夏が勝負所である。

3学年小論文指導始まる

■ 6月28日(木)「小論文ガイダンス」、計111名の3年生が参加

■ 3学年分野別小論文ガイダンス 7月10日(火) 放課後16:30～

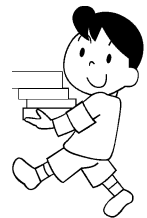
この日は分野ごとに分かれるため、使用教室は後日連絡。(筆記用具持参)

6月28日に提出してもらった進路希望書をもとに分野別に分かれ、その専門に詳しい仮担当の先生の指導を受ける。

分野は「経済・経営」「行政・法学」「教育・保育・日本文学」「体育スポーツ」「国際関係・外国語学」「医療看護」「理・工」「芸術」など。

内容は ○分野別 知っておきたい知識、今ホットな話題・キーワード

○夏休み中やっておくべきこと、今後の取り組みとアドバイス ○分野別推薦図書



2018年度入試のトレンド

今年予想される傾向→今後もこの傾向は続く

- ・ AI (人工知能) ← **注目！工学、経営、教育学部で出題、医療・福祉系でもAIに関連した問題増加**
- ・ 人口減少と高齢化をめぐる問題～社会保障費の拡大、財政赤字との関連、**人口減少緩和のため、移民外国人労働、女性の活用**という観点で。
- ・ 人口減少社会と地域の衰退、消滅～人口移動、地方消滅のデータがよく活用される。
- ・ 東京オリンピックを意識した出題も目に付く
- ・ 政治に関する出題が多い印象～**民主主義の基本、多数決、ポピュリズム、政治におけるレトリック**などが切り口
- ・ 教育学部では～新課程を意識したAL(アクティブラーニング)的な出題が散見された。

